

混合交通を観察する
DOCUMENT
series 184
Eye

平成16年中の自動車乗車中の交通事故での負傷者は30歳代および65歳以上の高齢者でそれぞれ増加傾向にあり、30歳代では3558人増加の16万4160人、65歳以上の高齢者では2579人増加の6万223人となっている。特に65歳以上の高齢者の交通事故負傷者数はここ

クルマは信号機のない交差点で一時停止を行っているか?

WHY



観察場所 / 長野県諏訪市沖田町5丁目付近
観察日 / 5月11日(水曜日)
天候 / 晴れ
観察時間 / 11:00 ~ 12:00(1時間)
観察者 / 4名



きちんと一時停止を行う初心者マークを付けたクルマ

10年で2.7倍に増加している。これは高齢者がクルマを運転、あるいは同乗する機会が増えていることと関係があるのである。事故類型別では出会い頭衝突が追突事故に次いで多く、25万1601件起

地方都市の信号機のない交差点で車両の一時停止状況を観察する
見通しの良い信号機のない交差点で一時停止を行った車両286台中134台

ており、その半数以上が市街地の信号機のない交差点で発生している。長野県諏訪市内のショッピングセンター近くの信号機のない交差点で、一時停止の状況について観察した。

WATCHING

停止線で完全に停止せず交差点を通過するクルマ多数

観察場所は長野県諏訪市の中央高速道路・諏訪インターチェンジ近くのショッピングセンター付近。大規模な駐車場があり、買物客のほとんどがクルマでやってくる。交通量はそれほど多くないが、国道と平行している道路を抜け道がわり利用するドライバーも多いようだ。

観察は、信号機のない交差点で車種別に一時停止の状況について行った。今回の観察では、停止線の手前(もしくは停止線)で車輪が完全に停止した状態を「一時停止」とした。見通しは良く、道路は直角に交差していた。いずれも「止まれ」の標識と停止線があった。

観察の結果、観察地点を軽自動車100台、乗用車・トラック184台、二輪車2台、合計で286台が通過した。完全に一時停止を行ったのは286台中134台(46.8%)だった。残りの152台のほとんどは、見通しの良い交差点だったこととあり、事前に交差する側の状況を察知、停止線付近で減速して徐行するものの完全には停止せず、徐行の状



先行する左折車がいる場合、後についていき一時停止をしないクルマが多かった



トラックは一時停止しない場合が多かった

態でそのまま交差点を通過していった。一方で、初心者マークを付けた30歳代半ばと思われる女性ドライバーが、停止線の手前で完全に停止し、左右確認を行って安全を確認した後に左折していった。

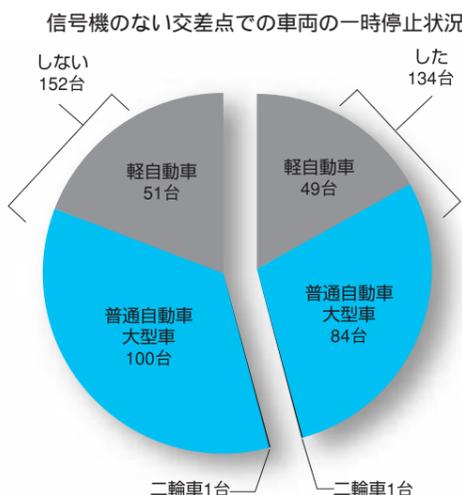
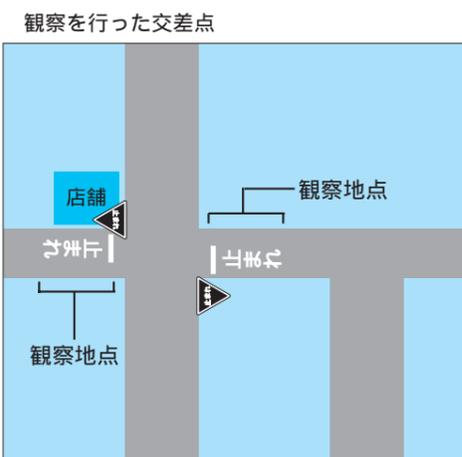
一時停止はしないものの、ほとんどのクルマが交差点の手前で減速していたが全く減速せずにそのままのスピードで直進した乗用車が1台観察された。また、高齢者と思われるドライバーの運転するクルマが道路中央付近で一時停止していたために、その道路へ左折して入ろうとするクルマがなかなか進めず、一時立ち往生する場面もあった。

観察地点では歩行者や自転車は少なかったのだが、少ないが故にドライバーからは見落としや気がかかった。不意に自分の前を斜め横断する自転車に慌てた様子のドライバーもいた。

PROPOSE

慣れている道でもしっかり一時停止をして左右確認を

地方都市ではクルマが重要な移動の手段となっており、生活には欠かせない。若者から高齢者まで毎日のようにクルマを



利用する。通り慣れた道で、逆に慣れているからこそ油断してしまい、一時停止を怠ってしまうのである。今回の観察では、一時停止を完全に行っているクルマは半数にも満たなかった。さらに交差点での左右確認も十分なものとは言えなかった。一時停止や左右確認を怠り、出会い頭事故が起きると自分だけだけでなく、相手にもダメージを与えることになる。交差点での出会い頭事故防止はきちんと一時停止して、左右の安全を確認することである。慣れているから、面倒だからと思わずに、しっかり一時停止を行ってほしい。